

楓葉

2019年8月 同窓会誌



独立行政法人国立病院機構
横浜医療センター付属横浜看護学校
発行責任者 佐竹一枝



手前、旧校舎▶
うしろ、学生寮



平成30年10月27日(土)
今年も楓葉祭に参加しました。

目的は『母校後輩との親睦』

恒例の‘お茶のみ処’を学校エントランスの一等席にかまえました。3年生の気になることは、入職後の人間関係と学習でした。受験を考えている成人男子が相談に訪れました。病院と学校・同窓生の縦横のつながりアピールには余念がありません。

会長挨拶

独立行政法人国立病院機構
横浜医療センター附属横浜看護学校
同窓会会長 佐竹 一枝



同窓生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より同窓会活動にご理解とご協力を頂きまして、心より感謝申し上げます。

今年は、平成最後の卒業生54回生82名が同窓会に仲間入りしました。看護学校・学部が毎年開校・新設する昨今、母校は1年1年長い歴史を積み重ねてまいりました。この度、鈴木新学校長より昭和の旧校舎の写真を頂戴いたしましたので紹介いたします。手前には初代木造校舎、奥の大正地区センター側には4階建ての学生寮がありました。学校玄関ではナイチンゲール像が出迎えていました。窓からは歴代の先輩が残してくださった記念樹からマイナスイオンが降り注ぎ、夏は蝉の声がのどかさを演出し、静かで学習環境として大変恵まれていました。是非、この写真を囲んで同窓生・同期と昔懐かしい思い出話に一花咲かせて頂きたく存じます。

今回の『楓葉』は、令和元年を記念して‘1’の回生に寄稿をお願い致しました。6名の皆さまには、快くお引き受け頂きましたこと誠に感謝申し上げます。また、1回生小田三九子様より、初代オリンピックイヤーの入学式や野外キャンプの写真など貴重な写真を頂戴いたしました。20年後の私も清川村に行き、カレーを作りキャンプファイヤーをしたことを思い出しました。どの時代でも、思い出は古き良き時代です。

5年毎の同窓会総会は、オリンピックイヤーの令和2年6月6日(土) 母校をお借りして開催予定です。楓葉の絆を深めたく心からお待ち申し上げます。

学生の資質・看護師の資質、社会情勢は、良きに付け悪しきに付け想定以上に毎年変化しています。60年に及ぶ母校と同窓会の歴史が続いていきますよう、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。益々の繁栄を祈念し、役員一同頑張りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。また、皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。



54 回生卒業式写真

学校長挨拶

独立行政法人国立病院機構
横浜医療センター附属横浜看護学校
学校長 **鈴木 宏昌**



2019年(平成31年)4月から病院長・学校長となりました鈴木宏昌です。

横浜看護学校との縁は2005年に始まります。当時の高橋院長の依頼で麻酔科講義を行いました。移転前の古い校舎で、テニスコートがあった事、玄関を入ると看護師の像があった事を記憶しています。

2009年に当院に麻酔科医として赴任、2011年より2018年まで学校で麻酔科の講義を担当しました。私の講義は1年生が対象でしたが、思いっきり専門的内容を話していましたので、覚えてない方も多いと思います。「手術着の先生から麻酔の講義をうけた」という記憶が残っていると大変うれしく思います。

現在、横浜看護学校は変革の時代に来ています。5年前の東京医療センター附属看護学校を皮切りに複数の看護学校が民営化(大学へ移管)され、今後もこの傾向は続きます。神奈川県内でも看護大学が増え、来年には大船にも看護系大学(定員100名)が開設される予定です。当校のような看護学校は学生募集に苦勞する時代(人数や質)となっています。

昨年度、本校の看護師国家試験合格率は全国平均を下回る結果でした。本校はセーフティーネット系病院を含む県内の国立病院機構5病院の看護師養成が使命で、50年以上にわたり有能な看護師を輩出しています。この地域で本校を存続させるため、本年度は「国家試験全員合格」を第一の目標として運営いたします。さらに学生たちのモチベーションを上げるよう私も率先して係る所存です。

時代は令和に変わりましたが、本校のメリットである低い学費負担と短い修学年限を生かし、今後も有能な看護師を育てるよう教職員一同努力いたします。学生実習時、同窓会の方々からご指導を頂戴する機会があると考えます。今後とも学生教育にご協力をお願いいたします。

副学校長挨拶

独立行政法人国立病院機構
横浜医療センター附属横浜看護学校
副学校長 **福田 優子**

同窓会の皆様、4月1日に横浜看護学校副学校長に着任しました福田でございます。皆様には日頃より当校の運営にご協力いただき感謝申し上げます。

学校の近況をご報告いたします。

昨年度2月に行われました第108回の看護師国家試験では現役学生、既卒者に複数の不合格者を出してしまいました。どんなに成績・実習が良くても、看護を語ることが出来ても国家資格が通らなければ無意味です。国家試験合格が最大の使命と捉え、学校長はじめ教職員一丸となって国家試験全員合格を目標に頑張っています。

今年度に入り4月に新入生80名を迎え計238名でスタートしました。うち男性は22名、9.2%でありまだまだ女性優位が続いています。職員は教員14名(育児休暇1名を含む)、教務助手2名、事務2名が勤務しています。今年度男性教員が2名、14.3%になりました。これは朗報です。男性教員が複数名いる学校はNH0の他の学校にはありません。このお二人の活躍により男子学生のよきモデルとなり男性看護師、男性教員が増えることを願っています。

さて今年度は元号が変わった記念すべき年です。当校も学校長・副学校長・教育主事1名教員1名が変わりました。学生と教職員が自分で考え、実行し、達成感を味わえる1年にできるよう支援していきたくと思います。今後ともご支援を賜ります様お願い致します。



一回生の皆様、どうしていらっしゃいますか？

卒業以来52年の歳月が経ち、今は当時を懐かしむというより貴重な体験をさせてもらったと、しみじみ思っている次第です。朝6時起床に始まって、お掃除や食事当番があり給食はリヤカーで運んだ事。建物は木造二階建ての古い病棟を急ごしらえした教室兼寄宿舎でした。冬は寒く20畳程の部屋に火鉢一個が与えられ、足にしもやけができた事。

また夜9時頃ボイラーから出る熱いお湯を湯たんぽに入れ、翌日そのお湯で顔を洗いました。国策としての看護婦の養成で全国から応募している事もあり、ほぼ全寮制でした。最初の頃、5人部屋での共同生活が難しく苦勞した方も多かったと思います。それでも自分達には一回生としての気概や責任のようなものを感じながら過ごした3年間でもありました。

細菌学授業での出来事です。手に附着している細菌を調べる実験でした。クラス全員でシャーレの寒天培地に指をこすりつけ、培養しました。結果一人を除いて全員のシャーレに同じ菌が繁殖していたのです。先生の説明によると、その細菌が枯草菌という分類に属し納豆菌などがそれに当たると。給食の朝ご飯にみんなで納豆を食べたことを思い出し大笑いとなりました。因みに一人の彼女はたまたまその日納豆を食べなかったのです。

在学中の3年間、教務の先生方、Drや各科(課)の先生方、実習等でお世話になった婦長さん始めNsの諸先輩の薫陶のもと、私達は大切に育てて頂きました。

52年後の今、かく云う私はもうすぐ75才。思えばずっと「看護」に関連した仕事に携わって来ました。今は地域の施設で傾聴などというボランティアの真似事をしています。「お年は？」とか「ご出身は？」とお尋ねすると「忘れられました」とおっしゃる。そんな時は二人で手を取り合って「アハハハハ」と笑い合う。私にもしのび寄る「老い」に深い共感を覚えるからです。



▲ S38年9月5日
入学式



▲ S39年3月
キャampingの朝
旧校舎の前で



▲ 病院内の桜並木
看護師のゼミ?発表の時
患者さん付き添い
(ヘルパー)さんと



▲ 奥湯河原キャンプの時
山登り

思い出

11回生と言えば、今は無き新学生寮が完成して最初に入寮した学年です。まさに初期は1年生だけの4人部屋で、寮内には全国の方が飛びかかっていました。担任の堂脇先生に「標準語を使う様に」との注意を受けた事がとても懐かしいです。それも束の間上級生も加わった合同部屋です。あっという間に良きあこがれの先輩達から同室訓練を受け精錬されました。ナイチンゲール精神の伴う共同生活でした。洗濯機の順番待ちはもちろんの事、消灯、おしゃべりと気遣いを学びました。プレイルーム?娯楽室はお腹の空いた白衣の天使が、朝食のパンを分けあって食べていました。門限や寮生監視役の上野先生にも守って頂きました。

あれから34年!! 11回生は、全国に散りました。唯一、3年毎のクラス会が続いています。横浜→山形→長野→青森→岩手→鎌倉→千葉→軽井沢→広島等々。

その折に、同行して下さった恩師金子先生の偉(医)大で寛大さに甘えてきました。学生時代の写真、スライド、思い出と共に先生の生きる姿勢、医療の倫理観と看護人生の上にも学ばせてもらい続けています。今年の4月6日、横浜で今後の11回生の行動方針重要会議?会食会がありました。これからの11回生はどんなナビゲーション?乞うご期待!



21回生 加藤さん(左) 田中さん(右)

21回生 田中 久美子

同窓会の皆様、お元気でお過ごしでしょうか。

卒業して33年の月日が経ちました。今回、同窓会誌の寄稿依頼を頂き、学生時代を振り返りました。キャンプ、楓葉祭の楽しかった思い出、厳しくもとても貴重な経験となった看護実習。人生で一番勉強した(笑)卒業試験及び国家試験。全員合格した際は、皆で涙しましたね。21回生の仲間と過ごした3年間は一生の宝物であります。

私は卒業後、旧国立横浜病院に入職、結婚を機に退職しました。二度と看護職には就かないであろうと思っていましたが、かよ(加藤佳代子さん)に誘って頂き、現在加藤介護看護部長の元、介護老人保健施設ハートケア左近山で看護師とし復帰し10年が経ちます。親の介護が現実となる年齢。CMやドラマで語られる様な生易しい世界ではありません。理想と現実の差に葛藤している毎日です。かよの想像以上の頑張りにも少しでも協力出来たらと日々歩んでいます。大変なことが多いけれど、私達、看護職が好きなんだね!と話しております。高齢化社会に伴い、老健での看護師、介護士不足の現実。同窓会の皆様、よろしかったら一緒に働きませんか?お待ちしております!!



31回生 高橋 亜樹

卒業してから約25年の月日が経ちました。全国各地から集まった仲間が、縁あって一つの場所で出会い、学生生活をともにしました。寮生活では、当番制で給食の食缶を運び、病院と寮を行き来したこと。二層式洗濯機を交代で使うために、先輩に次の操作や完了を告げるのに少し勇気の要ったこと。遅い時間に入浴すると、蛇口からお湯が出ず…浴槽のお湯を大切に使ったこと、などなど。さまざまな場面がよみがえります。ともに過ごした仲間をはじめ、先生方や先輩方、実習先と、たくさんのお会いと学びがありました。この全てが看護師人生の土台となり、今の私があるのをつくづく感じています。

私は、病院勤務ののち訪問看護を始めてから、早いもので18年目に入りました。北海道は広域ですので、都市部、郡部によっても医療・介護のニーズ、受け皿の幅は様々です。私の住む札幌市は、全国一サービス付き高齢者向け住宅が立ち並ぶ街です。長年住んだ場所から住み替えるケースも多くある中、必ずしも「住み慣れたところで」ではない場合があります。「今ある環境で最期まで心地よく」を目指し、地域包括ケアの一環として、訪問看護を広げていきたいと思っています。



41回生 霜鳥 耕輔

41回生で国立横浜病院付属看護学校に入学・卒業し、看護師として国立横浜病院時代に入職して、現在に至るまで勤務し続けて、13年が経ちました。入職時は旧病院時代の外科病棟で3年間勤務し、その後ICUへ異動し、ICUでの3年間での勤務後、副看護師長へ昇任し、西6病棟循環器病棟で1年間、併設のCCUで6年間の勤務を全うしました。その後、2019年4月になり、消化器内科・泌尿器科・耳鼻科などを主科とした西7病棟へ異動となり、新たな気持ちで働き始めた今日この頃です。幾度かの異動や研修などを通して、卒業生の先輩方には色々声をかけていただき、とても心強く感じております。日頃の感謝をこの場をお借りしてお伝えします。

私生活では、今年度より長女が小学3年生となり、次女が小学校入学となりました。社会人・看護師としても、父親としても、今後の自分のビジョンを思い描いて、自己実現できるよう今後も頑張っていこうと思います。



51回生 三宅 徹

2016年の4月に横浜医療センターICUへ入職して3年がたち、4年目を迎えようとしています。

思えば看護学生時代である3年間で多くの授業や実習を目まぐるしく駆け回っていく中で、様々な疾患を持った患者や重症な患者に対して看護師として関わられるようになりたいと思い、ICUに入職しました。

入職してからの3年間は、目の前の看護に対してひたすら取り組んでいく中で、様々な先輩方に支えられ指導していただき、同期にはやる気と力をもらい、後輩からは刺激を受けて学んでいくことが出来ました。4年目になる今年は新1年目の後輩たちのプリセプターとして学んでいくとともに、救急外来や

ER、カテーテル室での看護や、ICUでの重症患者に対する看護を行っていく中でさらに学んでいければいいなと思っています。そして、いつか学生時代に目指した看護師像に近づけるように日々進んでいきたいと思っています。

令和元年度 役員

会長	佐竹 一枝 (20回生)	書記	甲田 まゆみ (25回生)	会計監査	濱 法子 (14回生)
副会長	江田 留美子 (22回生)		元田 聡美 (47回生)		川口 妙子 (16回生)
	清水 敦子 (29回生)	会計	佐々木 博之 (39回生)		
			石川 励 (50回生)		

令和元年度 幹事

1 回生	井坂 洋子	21 回生	加藤 佳代子	40 回生	斉藤 彩	47 回生	村上 佑子
2 回生	奥村 典子	22 回生	江口 裕子	41 回生	川上 泰史	48 回生	新沼 美穂
3 回生	地蔵 テイ子	23 回生	伊原 真奈美	41 回生	霜鳥 耕輔	48 回生	平田 彩佳
4 回生	神代 アキエ	24 回生	崎山 和美	42 回生	岩竹 絵美	49 回生	角 俊一郎
5 回生	深石 みつ子	25 回生	甲田 まゆみ	42 回生	佐藤 広太	49 回生	佐藤 太一
6 回生	井上 ふさ子	26 回生	長尾 久栄	43 回生	平沙 敬悟	49 回生	久永 栞
7 回生	稲垣 文子	27 回生	富浦 裕	43 回生	三澤 宏美	49 回生	平山 光子
8 回生	浅野 恵美子	28 回生	木内 由起子	44 回生	佐藤 春加	50 回生	中村 智早
8 回生	渡部 俊子	29 回生	清水 敦子	44 回生	田村 佳世子	51 回生	三宅 徹
9 回生	寺澤 秀代	30 回生	小堺 史恵	45 回生	勝間田 昌寛	52 回生	出野 光穂
10 回生	米澤 繁子	30 回生	中野 理恵	45 回生	寺内 舞	52 回生	玉井 沙英
11 回生	小泉 由美子	31 回生	松岡 泰子	45 回生	樋渡 彩子	53 回生	北郷 綾乃
12 回生	大幡 洋子	32 回生	小林 里美	46 回生	荒木 大地	53 回生	切替 彩夏
13 回生	市川 美紀子	33 回生	川辺 美里	46 回生	伊藤 紗緒里	53 回生	水田 更紗
14 回生	濱 法子	33 回生	宮 岬美樹	46 回生	小山田 真美	53 回生	森田 志帆
15 回生	関戸 富子	34 回生	巨瀬 里美	46 回生	坂本 健太郎	54 回生	川野 眞子
16 回生	川口 妙子	35 回生	伊藤 直子	46 回生	田尻 高基	54 回生	小助川 有加
17 回生	杉山 トミ子	36 回生	坂口 佳織	46 回生	中曾根 未央	54 回生	夏川 知聖
18 回生	村松 真佐子	37 回生	池江 真彦	46 回生	藤川 仁子	54 回生	西山 侑希
19 回生	鈴木 雪子	38 回生	成田 真代	46 回生	森 麻美		
20 回生	佐竹 一枝	39 回生	佐々木 博之	47 回生	早川 敦子		

《 幹事の役割 》

- 自分のクラスメートの住所把握：
変更時や不明者の住所判明時は、役員に連絡。
- 幹事会への出席：年1回（6月第1土曜日）。
やむを得ず欠席の場合は、責任を持って代理出席者を立てる。
- 同窓会事業への参加：
幹事交代時は、次期幹事を責任を持ち決定し、役員に知らせる。

同窓会の主な活動

- ＊ 毎月役員会（第1土曜日）
- ＊ 同窓会説明会
- ＊ 同窓会会誌‘楓葉’準備・発行
- ＊ 学校の各行事へ出席
- ＊ 楓葉祭へ参加…今年は10月26日（土）

住所変更届けのお願い

改姓・住所変更等ありましたら同窓会本部まで、メールまたはFAX、郵送にてお知らせ下さい。

<記載内容>

回生、氏名、変更内容（旧〇〇、新〇〇）、連絡先
よろしくごお願い致します。

同窓会本部

〒245-0063 横浜市戸塚区原宿3丁目60番2号

独立行政法人 国立病院機構

横浜医療センター附属横浜看護学校内

TEL. 045-853-8322（学校直通）FAX. 045-853-8348

E-mail. setumeikai@yokohama-ns.ecweb.jp

編集後記

今年は、令和“1”年にあやかり、幅広い学年層の方々からお声をいただきました。会誌作成にご協力いただき、ありがとうございました。東京オリンピックももうすぐですね。皆様のご健闘をお祈りしています。

会計 50回生 石川 励